

私は今日も憎まれる

南城市立玉城中学校三年 平良 陽奈

私はなぜ生まれたのだろう
その方が都合が良いから？

面倒な話し合いをしなくて済むから？
もつと豊かな生活が出来ると思ったから？

誰も答えてくれない

でも ちゃんと覚えてる

私を見つめる恐怖のまなざし

「もつやめて」と何度も祈るかすれ声

今も、鮮烈に、覚えてる――

いつの日か 島を見守る雄大な自然が

おぞましい地獄へと化す瞬間を私は見た

生命を育む濃緑の森が死の臭いに染まる

透き通る碧い海が血と油の黒と共に濁る

静かな空が無数の光と爆音で埋め尽くされる

優しく人々を包む郷里が

全てを滅ぼせと牙をむく

極彩色の美しきこの島が

単色画の世界へと凶変するその景色

ああ、目に焼きついて離れない

いつの日か 守ってくれるはずの兵隊に

死の淵へとつまみ出された人々がいた

炎と銃弾が乱れ飛び交の外界へ

放り出された女性に老人に子ども達

泣くことも許されぬ絶望に突き落とされ

ただ息を殺し身を縮ませて震えるその姿

ああ、胸に突き刺さって離れない

いつの日か 私に追い詰められて

自ら命を絶とうとした人々がいた

もうこれ以上の悪夢はいらぬ、と言う様に

異様に静かな暗闇の中で

封じ込められる赤子の泣き声

「ごめんな」とつぶやく小さな声

世界を引き裂く流弾の轟き

鈍く響く刃音と共にぽたりと滴る血の調べ

苦しみと悲しみの狭間に揺れるそのうめき声

ああ、耳にこびりついて離れない

私はいつ生まれたのだろう

この小さな島が無数の戦艦で囲まれた時？

誰かの悲鳴が銃声音に掻き消された時？

それとも・・・もつと、もつと前のこと？

思い出そうとしても 分からない

でも ちゃんと覚えてる

私を睨む真つ赤な瞳

私に吠える嵐の雄叫び

今も、鮮烈に、覚えてる――

ああ どうして

どうして そんな瞳で見つめるの

私を育ててくれたのも

それを止められなかったのも

気付かないふりをしたのも

ぜんぶ ぜんぶ あなたたち

「お前さえいなければ」

何を今さらそんなこと

私を生み出したのは あなたたち

みな、私を言い訳にしては

希望を創り出す子ども達を

悲しみに満ちた苦悩の世界へと放り投げる

それが幸せへの道だと呪いの様に言い聞かせ

盲目に私を育て 私に苦しみ

大切な人を失い 身も心も傷付けられる

そんな子ども達を 造り続ける――

なんて、なんて恐ろしい負の連鎖

そして手に入れたのは、一体何？

そうつぶやいた声は届かない

私は何度も問い続ける

私は憎む想いと共に

今なお残る私の欠片、爆弾と共に

あの日の写真と共に

摩文仁に並ぶ 黒碑と共に

静かに、しかし何度も問い続ける

『沖繩戦』は何故、生まれてきたの――

「わたし」は涙する

眼で 耳で 鼻で 肌で 脳で

直接感じることもなかった「あなた」に

「わたし」のすべてで想いを馳せて

「あなた」が教えてくれた

失われた生命の重みを背負い

二度と過ちを繰り返すまいと決意する

ここに誓おう

二度と「あなた」を生み出しはしないと

「あなた」を わたしたちを

そして祖先を 子孫を

二度と傷付けることはしないと

「あなた」を忘れはしないと

誓おう

鎮魂の祈りと共に――